

地域のくらしの足を支える

住民主体でつくる外出支援

認定NPO法人 かながわ福祉移動サービスネットワーク





●神奈川県内の福祉有償運送団体を中心に約100団体がネットワークしている中間支援組織。

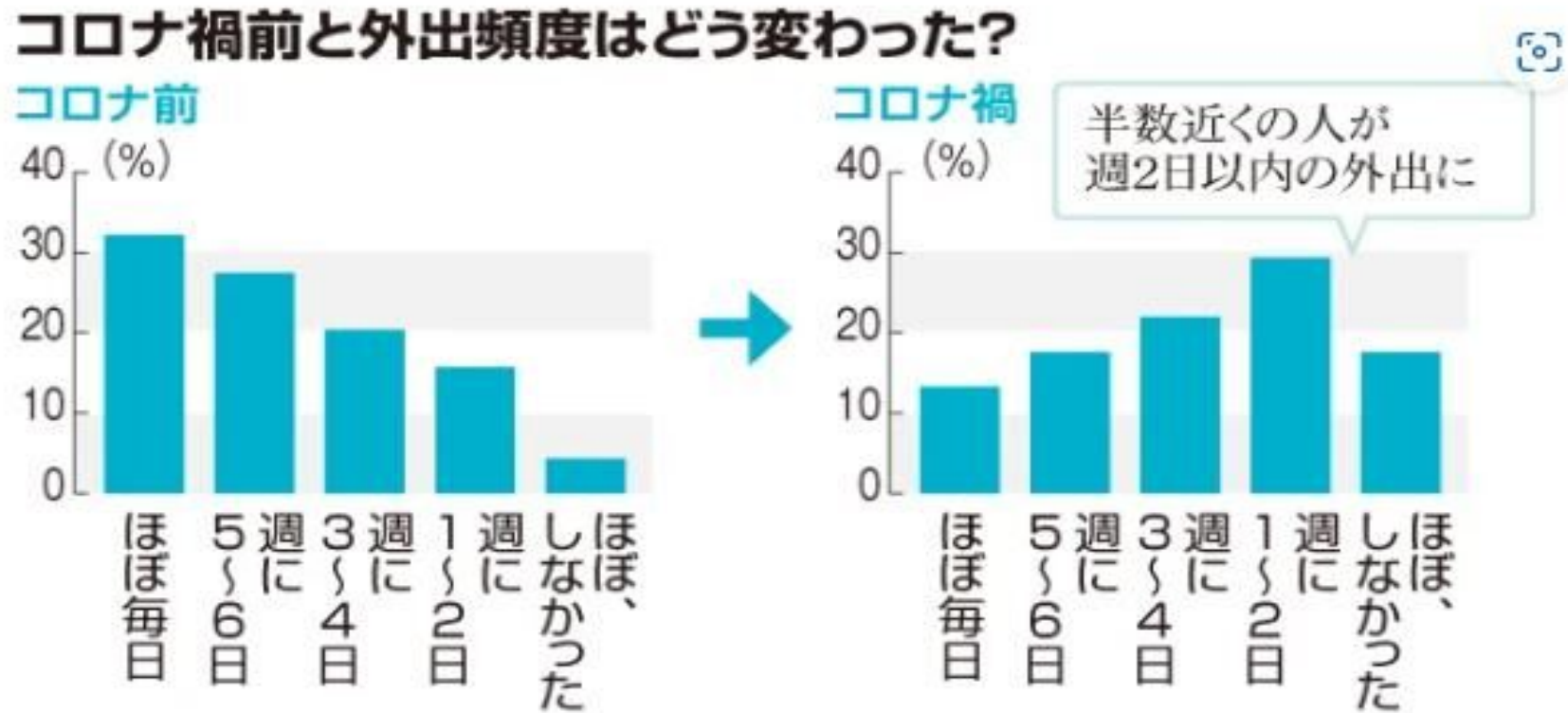
●2022年の主な事業

- ・利用相談・団体支援（申請や制度についての助言等）
- ・国交大臣認定運転者講習の定期開催
- ・団体向けの学習会開催
- ・自治体への働きかけ（外出支援活動の周知や担い手養成のための協働等）
- ・自治体との連携事業（住民の外出支援活動の創出、活動支援）
- ・特別支援学校の通学支援事業の受託窓口
- ・車いすの車両乗車時の安全に関する研究会
- ・地域のたすけあい交通づくりの支援・研修開催
- ・交通事業者との連携

福祉有償運送とは

- ・外出支援を必要とする人たち～コロナ禍の様子
外出自粛とコロナフレイル・なくなった日常生活に対応できない
- ・ニーズに応える～サービスを止められない
- ・外出と健康の維持 外出支援の必要性
- ・福祉有償運送～どんなサービスか

フレイル～「コロナフレイル」といわれる現状（高齢者）



朝日新聞 Reライフプロジェクトのアンケートではコロナ禍前、週5日以上外出する人が6割近かったのが、コロナ禍の中では週2日以内の人が半数近くに。コロナ禍を契機に、外出頻度の傾向がすっかり逆転しました。

※コロナ禍での高齢者の健康状態の悪化は「加齢」によるものよりもスピードが速いと指摘する研究者も。

フレイル～「コロナフレイル」といわれる現状（高齢者）

- 通院、デイサービス(生活上MUSTの外出)を控える
→ワクチン接種が「久しぶりの外出」となった
- 「楽しいおでかけ(WANTの外出)」が出来なくなった。
→いつになったらおでかけ出来るか、あきらめの声と共に要望の声も多かった
→グループでの外出企画(初詣やお花見)などは、すべての団体が中止した
(外出先での付き添い支援、運賃を頂かない企画)
- 施設入居者 外出制限があり外出できない
→買物にも行けないため、
買物代行(生活支援サービスとして)を依頼される

行動制限がなかった
年末年始。3年ぶり
に帰省してみたら、
思ったより両親が体
力低下していた、と
離れて住む家族から
介護保険利用の相
談が続出している。



活動者も不安を抱えながら、でも、活動は止められない

MUSTの需要に応える

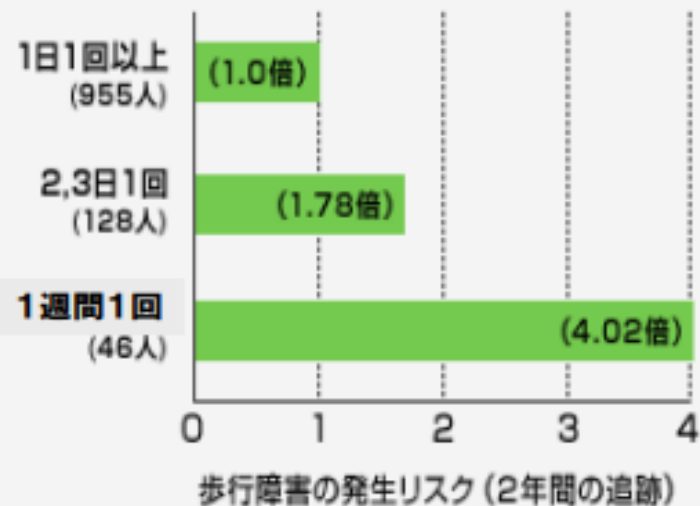
- 通院
 - 作業所・学校へ行く
- (当事者)どうしても通院・通所・通学が必要
身近に家族がいない
家族では対応が難しい(仕事のため、高齢のためなど)

「感染」の不安を抱えながら
最大限の感染予防をし、日々の送迎に対応した
日常とは違う環境に
通常の支援だけでは十分でなく、工夫をしながら対応した
現在:休止していた楽しい外出、少人数で徐々にリ・スタート

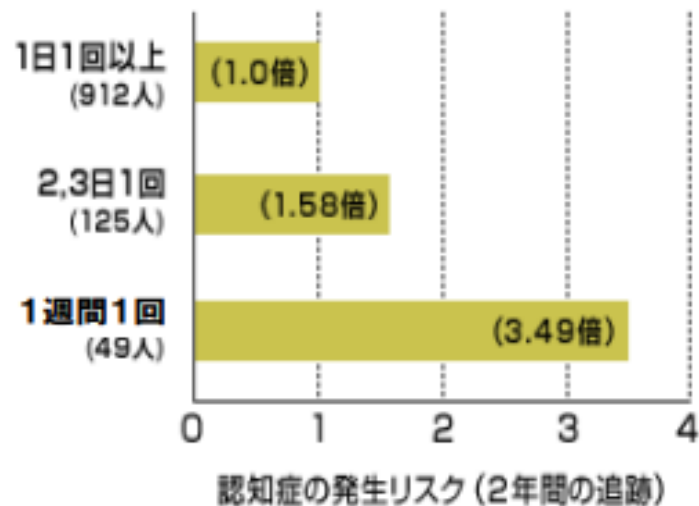
外出機会と健康の関係

外出することは、健康予防、認知症予防にも効果あり！

● 外出頻度と歩行障害の発生リスク



● 外出頻度と認知症の発生リスク



新潟県Y市で65歳以上の高齢者を対象に2001年から2年間追跡調査した結果

※両グラフとも、もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

(資料) 財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所[第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード!]より

「資料提供：独）東京都健康長寿医療センター 井藤英喜 センター長」

移動サービスとはどんなサービスか

運転だけではない「介助・付き添いと運転がひとつながりとなったサービス」

地域で自分らしく暮らし続けるために、必要な外出を支援する。家での着替え、車の乗降サポート、やさしい運転、目的地での様々な付添介助など、外出するために必要なお手伝いをします。



MUST: 通院、通学、通所



病院



施設



学校

WANT: 趣味の集まり、おでかけ、買い物



レストラン



美術館



ショッピング



移動サービス

「高齢になっても自分の町で暮らしたい」を実現する

- 歩行の見守り、乗降の介助、付き添い、お買い物やお楽しみのおでかけもお手伝いします。

【少しの支えがあれば、おでかけできる】

●通院の付き添い

- ・ 受付を代行する
- ・ 処方箋薬局へ薬を取りに行く
- ・ 病院での待ち時間にはお話し相手

●あきらめていたおでかけにも！

- ・ 品物を自分の目で見て選ぶ

通院以上のことを家族に頼むのは心苦しいと思っていた。移動サービスと一緒にならお買い物も気兼ねなく。



●学校送迎や、仕事場(作業所など)への送迎

「送り迎えは親の責任」時代から、「たすけあう社会」へ。

●学校や仕事場への送迎

- ・ 家族に代わって、朝夕学校の送迎バスポイントまで送る
- ・ 高齢になった両親に代わって送迎

●こんなこともあります

- ・ 家の玄関から出るのに時間がかかる
- ・ 車から降りても座り込んでしまっって歩かない



移動サービス 重度の障がいのある方や介護度の高い方も。

● 見守りから、重度の介助まで対応。

●車イスの人も福祉車両でおでかけ！

障がいや体力の低下などで、歩行が辛い、車イスのまま乗車し「ふつうに」お買い物も。

●玄関の段差や道路に出るまでの数段の階段介助

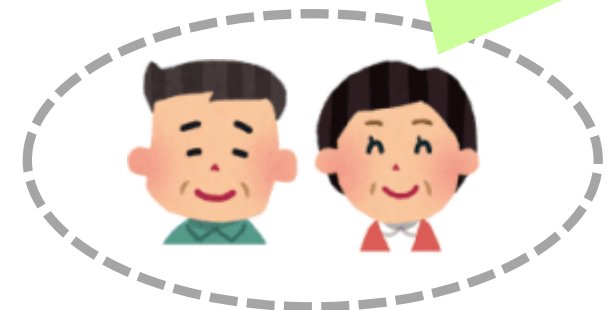
車いすごと階段を降りるお手伝いもします。たしかに重労働です（！）

●おでかけ先で付き添うこと、トイレ介助や食事介助も必要に応じて行うこともあります。

●車いすユーザーなので高校まで送迎。

●パニック障がいで朝のラッシュ時には通勤できないので、お手伝いします。

階段介助などは高い介助力と体力を必要とします。介助力アップや利用者大変さを理解するために介護や福祉の講座も受講しています。みなさんから「笑顔」を頂けてやりがいを感じています。



移動サービス 生活を楽しむ！



みんなで食
べる食事は
おいしい！

●お花見、初詣、美術館、レストラン、 「おでかけ」は人を元気にします

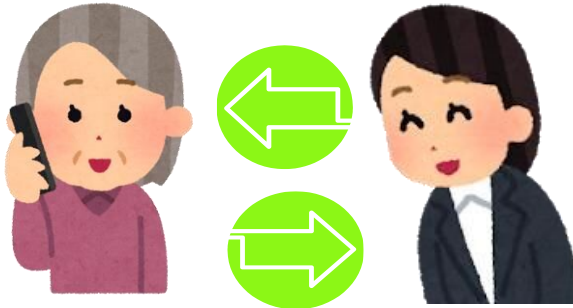
- ・行きたいところがないのでは
なく、おでかけをあきらめている
- ・おでかけを企画して、一緒に楽し
むことで、でかけたいという気持
ちが膨らむ様子が見えることは、
私たちにとってもうれしいこと
- ・シネマ歌舞伎へ、コンサートへ、
情報を提供して
生活を楽しむおでかけを
実現するお手伝い



今日は
オシャレ
してきたよ。

サービス提供の流れ

利用するには登録が必要



電話での
問合せ・登録受付

対面での
【コーディネート】
入会・登録

利用申し込み → 利用

コーディネートが重要です

- 身体状況（歩行の状態・マヒなどの有無）
 - どういった介助が必要か、
ご本人やご家族（時にはケアマネジャー）の意向確認
ご本人の希望を優先しつつ最優先は安全な介助
 - 服薬（食事をご一緒することもある）
既往症、緊急時（発作など）の対応なども確認しておく
 - 車に乗るまでの順路（急坂、階段）や介助確認
- 一番大事なのは、安心して外出していただくこと。
身体的な支えとしての役割、また、友人知人のように一緒に外出を楽しむパートナーであることも大切にしている。

こんな準備をしてサービス提供します。だから、急な対応は苦手です。

コロナ感染予防対策、罹患後の活動復帰

「車」という閉じた空間なので、感染に対する備えは十分に、かつ慎重になる

●活動メンバーにかかる危険

認知症や知的障がいがある場合、マスクの着用意味を理解できないことがある。

●利用者にかかる危険

高齢のため体力低下、重症心身障がい、医療的ケア必要であるなど、極めて体力がない場合は感染が「命」に直結する。

予防 対策

- ・ 車両の消毒、換気(外気導入モードや窓開け)
マスク、消毒液、
- ・ 手指の消毒、体温の計測



活動復帰 対策

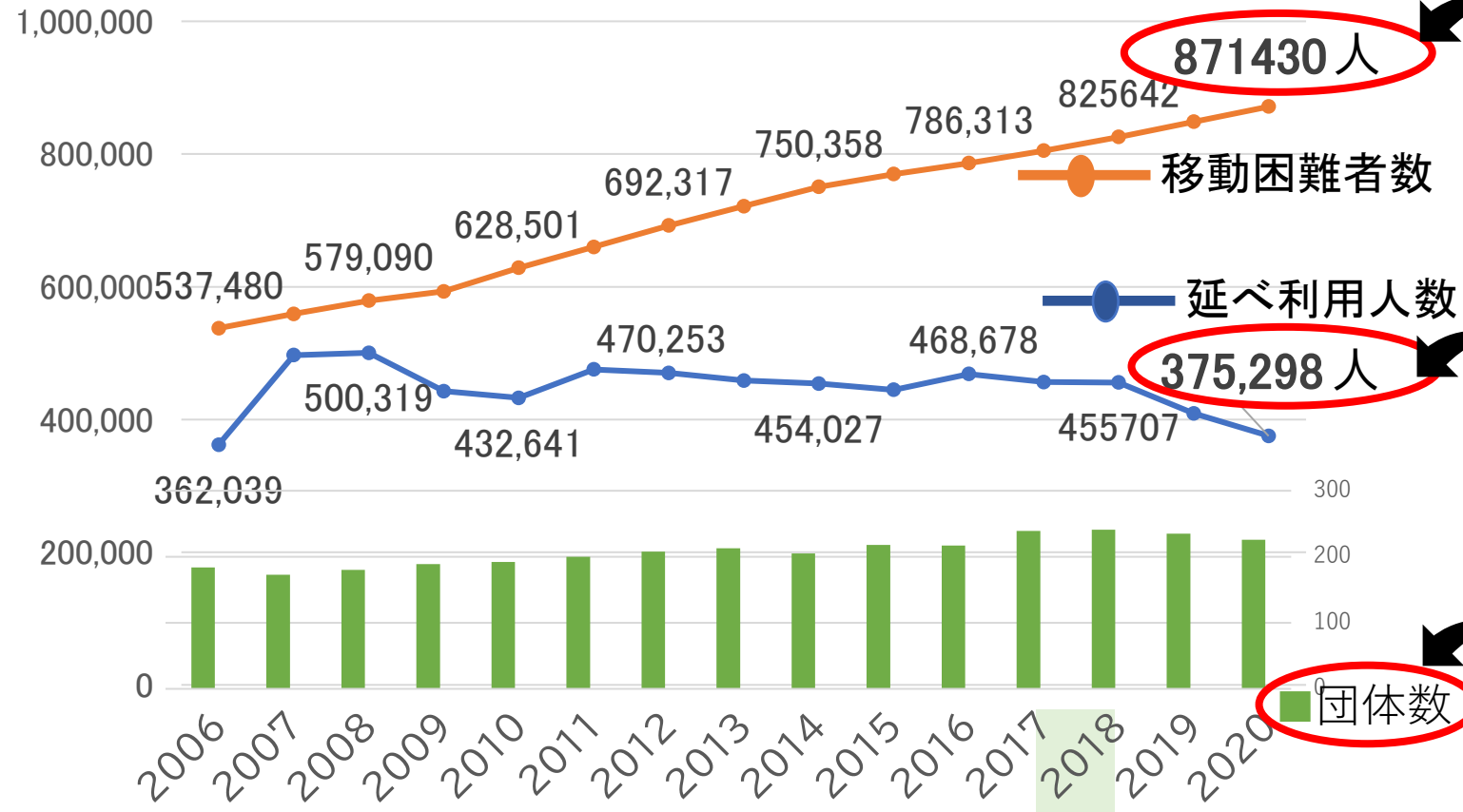
- ・ PCR検査の実施(実費で)
福祉有償運送が公的制度(介護保険や障害福祉)に依らないため、
福祉有償運送事業のみの団体には「無償のPCR検査の提供」がない

移動困難者数の推移

	2006	2009	2012	2015	2018	2020
人口総数 (A)	8,854,830	9,008,743	9,079,236	9,144,183	9,181,625	9,236,337
移動困難者	※人口 2006年→2020年 104.3%増 2021年 9,231,177人に減少					
要支援・要介護認定	234,357	255,613	318,080	364,191	403,104	428,868
身体障害者手帳交付者数	229,751	245,955	261,835	270,835	267,621	268,447
知的障害児者把握数	31,928	43,384	56,010	69,814	70,150	80,429
精神障害児者数	41,444	48,018	56,392	64,994	84,767	93,686
移動制約者数計 (B)	537,480	592,970	692,317	769,834	848,514	871,430
人口総数に占める移動制約者の割合 (B/A)	6.07	6.58	7.62	8.41	8.99	9.43

※移動制約者の数は 2006年→2020年 162.0% 増

移動困難者数と利用実態・団体数



●移動困難者は
2006年から2020年までで
約1.5倍以上となっており、
●人口に占める割合も
6.07% ⇒ 9.22%
と増え続けている

●有償運送の延べ利用人数は
2006年 362,039人
2010年 432,641人
2015年 444,772人
2020年 375,298人
※2019年以降、下降している

●県内の福祉有償運送の
登録団体数は2019年より減少
2006年 184団体
2010年 192団体
2018年 241団体
2020年 226団体

■ 移動困難者は増加しているのに、サービス量・団体数も減少している

住民活動を取り巻く制度

- ・福祉輸送いろいろ
- ・制度と登録不要のたすけあい活動

福祉輸送いろいろ

福祉有償運送(移動サービス)

対象者を介助が必要な高齢者や障がい者に限定し、道路運送法79条による登録した非営利な団体が行う。

車両は会の有車に加え、登録した団体メンバーの車両も可、福祉車のほか自家用普通車も可

■タクシー運賃の概ね2分の1程度

福祉タクシー

車いすやストレッチャーのまま乗り降り出来る装備を備えた福祉車両を使ったタクシー(福祉限定許可でなく一般タクシー)・利用者の限定はない。

その他:車いすのそのまま乗降できる「ユニバーサルデザインタクシー」の普及に力を入れている

■料金は一般タクシー

福祉限定タクシー(福祉輸送事業限定許可)

対象者を介助が必要な高齢者や障がい者、一時的なケガや病気の人に限定して行うタクシー。

営業許可(道路運送法4条)を持ち、二種免許所持者が運転する。

■料金はタクシー運賃が基本

介護保険事業者のタクシー

介護保険事業者がタクシー事業免許を持ち運行する。介護保険の利用者を対象とし、ケアプランに基づきヘルパーが行う...「通院等乗降介助」など介護保険が適用される。

ヘルパーの持ち込み車両については、道路運送法78条の許可を得て行う。
(通称4条ぶら下がりと呼ばれる)

送迎サービス 登録が必要な場合（道路運送法）

【自家用有償旅客運送】 道路運送法78条

- ・ 運送の対価を利用者が負担できる
- ・ 運転者は二種免許か大臣認定講習修了者
- ・ NPOなどの法人格（あるいは地縁組織）が必要
- ・ 登録に際し書類申請や運行管理者設置など必要

福祉有償運送

- 対象者が限定される

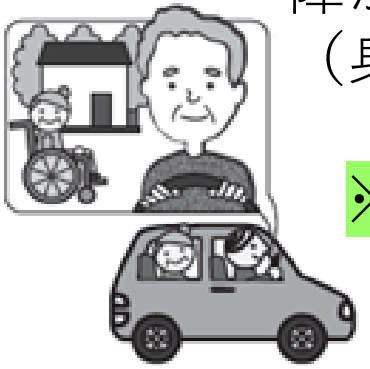
要介護認定者

要支援、チェックリスト該当者

障がい手帳所有者

（身体、精神、知的、発達障がい）

※一般高齢者は対象外



交通空白地有償運送

- 住民全体が対象

年代を問わない

- タクシーが営業していない
など、交通不便な地域に限定



神奈川県では事例がない

登録が不要な場合①

「道路運送法における許可又は登録を要しない運送の態様」より



- ・ 運送の対価を利用者が全く負担しない
- ・ 好意に対する任意の謝礼
- ・ 換金性がない野菜や財物を手渡すなど

完全に無償



- ・ かかった**実費**程度の負担のみで、人件費などの負担がない。（ガソリン代・道路通行料・駐車場代など＝特定費用）

無償運送



- ・ 家事支援などのサービスメニューの一つとして「外出支援」があり、車を利用しても、しなくても利用者が払う対価に変わりがない場合
- ・ 「料金＋ガソリン代」は不可

家事支援
一体型

たすけあいの外出支援

- ・仏向ふれあいワゴン（横浜市保土ヶ谷区）
- ・栃窪たすけあいの買い物支援(秦野市)
- ・綾西みんなの足（綾瀬市）
- ・「かないばら苑」と「あさお運転ボランティアCAP」のサロン送迎（川崎市麻生区）
- ・逗子ハイランド自治会の買い物支援（逗子市）
- ・菊名おでかけバス(横浜市) 住民主体

仏向ふれあいワゴン 横浜市保土ヶ谷区



運転研修を実施



- 地域の困りことをアンケートした際に**通院**、**買い物**という声が多数あり、「移動手段を0から考える会」を自治会とケアプラザ(地域の福祉拠点・中学校区に1つ程度の分布)で立ち上げた。
- 2018年4月**病院の通院送迎**を開始(地区社協が主体となる) **個別支援**
- 2019年4月**買い物支援**を目的とした活動が開始。ケアプラザの車両。 **買物のりあい支援**
- トヨタモビリティ財団の助成を得て、2020年10月より**新車両で活動開始**
- 対象: 地域の75歳以上の一人暮らし、または高齢者世帯。登録が必要。無償運送
- イベントの送迎も開始

栃窪たすけあいの買い物支援 ～秦野市～

行政

社福

住民

- 買物が困難な地域住民サービスとして「とちくぼ買い物クラブ」が栃窪自治会で始まった。2018年9月から3カ月間試行される。
- 市公用車(7人乗り)を使い、自治会有志が運転者として毎週水曜日の午前中、希望者を渋沢駅や近隣スーパーまで送迎する。現在は社会福祉法人が空車両の提供を受けている。

+++++

- 2017年、西地区の市政懇談会で要望が出たことをきっかけに、渋沢・千村地区18自治会でアンケートを実施し、特に高齢化率が高く、路線バスがない栃窪自治会(世帯数96)をモデル地区として実施することになった。利用は無料で、燃料費は市が負担する。

+++++

● 事業の効果

- ・地域のコミュニケーションが活発化した
- ・悩みを話す人ができてストレスが解消され、安心感が生まれた
- ・1人暮らし高齢者を地域で見守るという意識が共有されはじめた
- ・ボランティアが特別なことではない雰囲気地域に生まれた
- ・毎週外出することにより介護予防につながった



「とても楽だった」「普段会えない人と一緒に買物ができて嬉しかった」



栃窪自治会長

今すぐ必要という人は少ないが、将来的に増えると思う。集まって移動するということで新たな交流の場にもなるかもしれない

綾西みんなの足プロジェクト（綾瀬市）

住民

行政

- ・住宅地となって50年 高齢化率41%
- ・通院や買物に不便を感じる人のお手伝い、楽しいおでかけを提案。地域の商業地域（バザール）の活性化を目指して活動し始めた。（会員10名）※車両は市の公用車、運転は市職員。
- ・H30年から 4年間で15回の会議、5回の試運行。地域の「足」を作りたいと市、社協とも連携。

2019年5月 バラ鑑賞と
新施設（福祉プラザ）見学



2019年10月
バザール大市



2019年12月お買い物
2020年2月コンサート



楽しみのため
のおでかけ

通院・買い物
生活を守る外出

ワクチン接種
会場への送迎

新しい試みへ



2020年10/18
バザール大市のイベント送迎として
グリスロ＝グリーンズローモビリティの試運行
2021年度 国土技術政策総合研究所（国総研）の
モデル事業採択決定

かないばら苑 社会福祉法人が地域連携をつくる

社
福

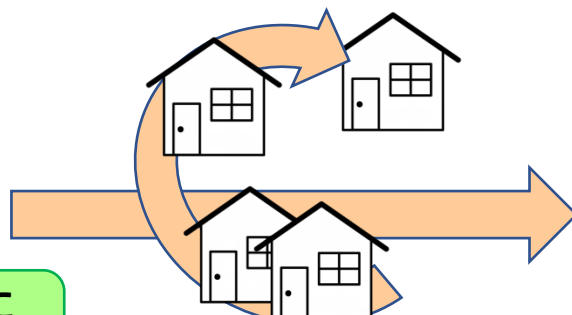
住
民

● 社会福祉法人一廣会「かないばら苑」と「あさお運転ボランティアCAP」がコラボ 2010年からスタートしている

- 車両：デイサービスの空き車両を社福が提供
- 運行：かないばら苑のボランティアグループが運転、運行管理を担う



デイ送迎以外の空き時間に
苑のボランティアグループが運転



利用者の家を回り



サロン到着

- 「あさお運転ボランティアCAP」メンバー10人が 毎回2人体制で自宅からサロン会場へ乗合で送迎 <無料>
- サロンは [片平おしゃべり会] 10～14人/回
- [ももとせの会] 4～5人/回
- [サロン・ド・それいゆ] 1～2人/回 ★高齢者・障がい者のサロン



社会福祉法人かないばら苑
と地域住民との会議：
「いつも車両が駐車場に止まっ
ているが、地域のために走って
くれないのか？」

地域と連携した活動をつくりたい。職員が運転しても事故が起るときは起こる。。



逗子ハイランド 社会福祉法人と連携して買い物支援

社
福

住
民

- 社会福祉法人百鷗・清寿苑が車と人(運転手:自治会の事務員を臨時雇用契約)を提供、自治会が添乗して地域の買い物支援を実現。

2015年12月より開始

- 車両：デイサービスの空き車両を社福が提供
- 運行：毎週(月)(木)11:30 スーパー西友前発車→各お宅の前まで。
添乗は逗子・鎌倉ハイランド自治会役員
- 対象者：多少は歩け特別な介助のいない人 !!



家まで迎えに来てほしいという声もあるけど、私たち「介助」出来るか不安…。

スーパーまで来れる人なら、私たちもお手伝いできる。



自治会



■ 「不安だからやらない」ではなく「できるところまでやる」という選択

デイの空車両



臨時雇用の職員
自治会の事務職



自治会役員
添乗

自治会員

社福と自治会の協力関係

自分たちでできる範囲を見極める(背伸びしない) !!

●外出支援からまちづくりへ

菊名おでかけバス（横浜市港北区）

- ・2011年1月、自家用車で地域循環型の運行を開始した。[市バス(ミニ)を借り上げての試運行も実施したが、住民で運行できる現在の形を議論の上、選択した]
- ・2012年より、地域の方の好意で8人乗り車両を提供してもらい運行、ルートも何度か改編し、地域での認知度も上がった。行程約9キロ

買物のりあい支援



中間支援組織 としての役割

- 高齢者、障がいのある方も自由に出かけられる社会づくり
 - ・様々な交通・生活支援モードが連携して、必要なサービス・地域活動をつくるための新たなネットワーク
- 大切な活動(福祉有償運送・たすけあい活動)をなくさないためにやるべきこと
 - ・支える側が「やりがい」を感じ、負担なく継続できる仕組みづくり
 - ・NPOがつくる福祉有償運送の継続性の担保
 - ・住民の主体性を尊重し、たすけあいの地域活動、地域づくりに伴走

多様なニーズに多様な担い手・たすけあいをつなげる

NPO活動

地域のた
すけあい
活動

自治体

